



んでまいります。

### 【行財政改革に職員一丸となって努力します】

行財政改革につきましては、市長就任後「行財政改革推進本部」を立ち上げ、短期的、中・長期的改革事項を研究・検討してまいりました。それと並行して、ご承知のように昨年3月には総務省の指導のもと「集中改革プラン」を作成したところですが、一方では、合併後の行政改革の基本理念や目標を掲げる新市の「行政改革大綱」がなかったため、昨年9月、市役所内に「行政改革大綱策定本部」を立ち上げ、本年9月の公表に向け現在専門部会を中心に職員の総力をあげて鋭意、取り組んでいるところであります。また、議会からも昨年11月に「行財政改革検討特別委員会最終報告書」として行財政改革に関し提言をいただいたところですので、その内容を今後、大綱の中に十分に反映してまいりたいと考えております。本年度も引き続き、全庁的な行財政改革に取り組むこととし、今できる改革、改善は間を置くことなく対応し、この難局を乗り切るため行政改革大綱実行計画（アクションプラン）の策定と実現に向けて職員一丸となって努力してまいります。

また、本年秋には、平成20年度からスタートする新たなまちづくりの羅針盤、第1次山陽小野田市総合計画を議会に提案させていただきます。現在、多くの市民の方の参加を得て作成した素案を基本構想審議会

で議論していただいております。間もなく基本構想案、基本計画案として市民意見公募制度により意見募集を行うこととなりますが、空想的な未来を描くのではなく、また、決して背伸びをせず、現実的で実現可能な計画となるよう現在策定に努めているところであります。

### 【公債費負担の適正化に取り組みます】

破綻寸前の財政危機を乗り越えるため、平成19年度の予算はこれを「崖っぷち予算」と位置づけ、第二の夕張にならないように、歳出においては公共施設の利用経費等について極限まで絞り込み、職員給与については定員管理や給与水準の適正化を図りながら、引き続き5%の減額を継続し、かつ時間外手当を大幅に削減するなど、徹底して義務的経費を抑制しております。また、普通建設事業については、緊急性や投資的効果を踏まえ、継続事業を中心に厳選し、その財源を地方債に頼ることなく、計画的に公債費負担の適正化を図ることとしております。また、歳入についても、引き続き知恵と工夫を活かし、自主財源の確保に全力で取り組んでまいります。

今後も、財政の破綻を回避しながら、適正な費用対効果に基づく行政サービスの充実、最小の経費で最大の効果が上がる行財政運営に努めてまいりますので、議会をはじめ、市民の皆さまのご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

(2月定例議会の演説より抜粋)

#### ○ハザードマップ作成事業 (500万円)

厚狭川洪水ハザードマップと西沖高潮ハザードマップを作成します。

#### ○都市計画マスタープラン策定事業 (1,723万円)

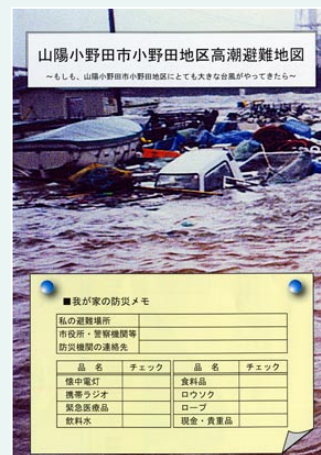
新市における土地利用の方向性や道路・公園・下水道など施設整備の考え方を明らかにするため、都市計画に関する基本的な方針を策定します。

#### ○柿の木坂南公園整備事業 (200万円)

平原地区のまちづくり事業に伴い、市営平原団地内に公園を整備します。

#### ○市道平原団地線道路改良事業 (5,000万円)

柿の木坂南公園整備と同様に団地内道路を整備します。



▲厚狭川洪水、西沖高潮のハザードマップを作成します。(写真は18年度作成の小野田地区高潮避難地図)